Axial RETAILING



CSR REPORT 2024

Axial RETAILING

アクシアル リテイリング株式会社

VEGETABLE OIL INK

植物油インキマークは植物油を使用した印刷インキに表示できるマークです。

アクシアル リテイリング株式会社
新潟県長岡市中興野18番地2 〒954-0193
Tel.(0258)66-6711　Fax.(0258)66-6727
https://www.axial-r.com/

[対象期間]2023年度(2023年4月～2024年3月)※　**[対象範囲]**アクシアル リテイリンググループ企業　**[発行日]**2024年6月
[参考ガイドライン]GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード2016、環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」
[お問い合わせ先]アクシアル リテイリング株式会社 CSR・広報部 環境CSR室
[TEL]0258-87-0440　[FAX]0258-66-8663　[URL]https://www.axial-r.com/contact/
※一部に対象年度以外のものを含む場合があります。

発行者：アクシアル リテイリング株式会社　印刷：高速印刷株式会社

アクシアル リテイリングはスーパーマーケット原信・ナルス・フレッセイを運営しています。



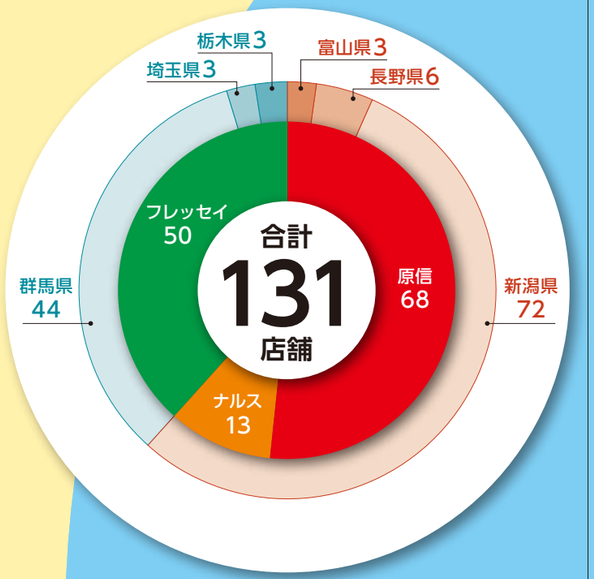
原　　信
68店舗
新潟県長岡市　1967年 スーパー創業
経営統合に伴い2006年創立



ナ　ル　ス
13店舗
新潟県上越市　1948年 成沢商店創業
2006年 経営統合



フレッセイ
50店舗
群馬県前橋市　1850年 松葉屋創業
2013年 経営統合



年間お客様数
約1億1000万人

2023年度の新店舗・改装店舗



原信 紫竹山店
改装OPEN／2023年4月8日



原信 燕店
移転OPEN／2023年9月30日



原信 白根店
建替えOPEN／2023年11月29日



フレッセイ 新保店
改装OPEN／2023年4月21日



フレッセイ 境町店
建替えOPEN／2023年7月7日



フレッセイ 沼田栄町店
OPEN／2023年10月27日



目 次

1 会社概要
3 アクシアルポリシー／グループビジョン
5 年度方針／グランドデザイン
6 トップメッセージ
7 「おいしさ」がドまん中!!
9 人も社会も地球も健康に
11 健康と食を地域の方とともに
13 地域のライフラインとして
15 地域の人づくり・文化継承
17 誰でも働きやすい環境づくり
19 長く働き続けられる環境づくり
21 TQMを根底に据えた人づくり
23 技術革新への対応
25 循環型社会を目指して
27 温室効果ガス排出の低減に向けて
29 環境経営
31 事業活動と環境影響
33 持続可能な社会の実現に向けて

編集方針

アクシアル リテイリングは、より多くの皆様から当社をご理解いただくために、「CSRレポート」を毎年発行しています。本レポートは、売上・利益の9割を占めるスーパーマーケット事業を中心に、主に2023年4月から2024年3月までの期間における持続可能な社会の実現に向けた各種取り組みについて、SDGs※との関連を含め掲載しました。
※SDGsとは、2015年に国連及び日本政府が採択した先進国を含む国際社会全体の2030年に向けた環境・経済・社会についてのゴールです。

会社概要

社　　名	アクシアル リテイリング株式会社
本部所在地	新潟県長岡市中興野18番地2
設　　立	1967年8月
資 本 金	31億5,971万円
事業内容	スーパーマーケット事業を中心とした企業集団の持株会社
HPアドレス	https://www.axial-r.com/
グループ企業	株式会社原信 株式会社ナルス 株式会社フレッセイ 原信ナルスオペレーションサービス株式会社 アクシアル レーベル株式会社 株式会社ローリー 株式会社原興産 株式会社アイテック 高速印刷株式会社 高翔商事株式会社

本CSRレポートの表紙には障がいをお持ちのアーティスト様の作品をレンタルする「まちごと美術館CotoCoto」様に所属されている斎藤誠様の作品を使用させていただいています。なお、この作品は「Hana-well新潟県胎内高原の水」のパッケージにも使用されています。
関連ページ→P10、P15



アクシアル ポリシー

経営の目的である「経営理念」、組織活動における基本となる重要な原理原則である「経営原則」、全従業員が身につけて実践すべき行動原則である「行動指針」を合わせ、アクシアルポリシーとして制定し、従業員一人一人に浸透し、それぞれを実現できるよう取り組んでいます。

アクシアル リテイリング　グループ経営理念

我々は毎日の生活に必要な品を廉価で販売し、
より豊かな文化生活の実現に寄与することを目的とする。

経営原則

1. 高潔な企業風土をめざします。
2. TQMを経営の根幹にします。
3. 基本を徹底します。
4. マスメリットを追求します。
5. 持続可能な社会の実現に貢献します。

行動指針

1. 「判断の基準はお客様」です。
2. 安全を最優先します。
3. 全体最適で発想します。
4. 自己育成に努めます。
5. 人間性を尊重します。
6. チームワークを大切にします。
7. コミュニケーションを円滑にします。

アクシアル リテイリング　グループビジョン

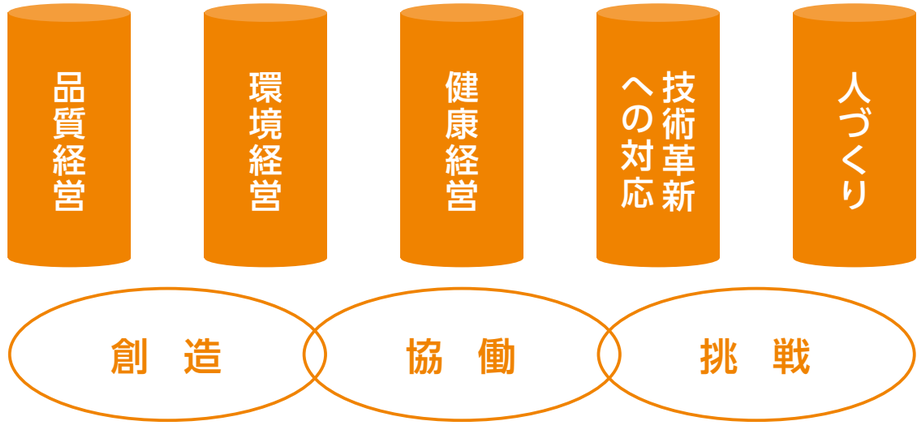
経営理念を実現する為の長期的な方向性を示したのがグループビジョンです。

各事業会社、各店舗、各部署、各人がそれぞれ技量を磨き込み、自主的・自発的・自律的に活動しながらも、全体として調和のとれた活動を行うことで、今まで以上のマスメリットを創出し、お客様に新たな価値をご提供するという思いを込めて制定されたものです。

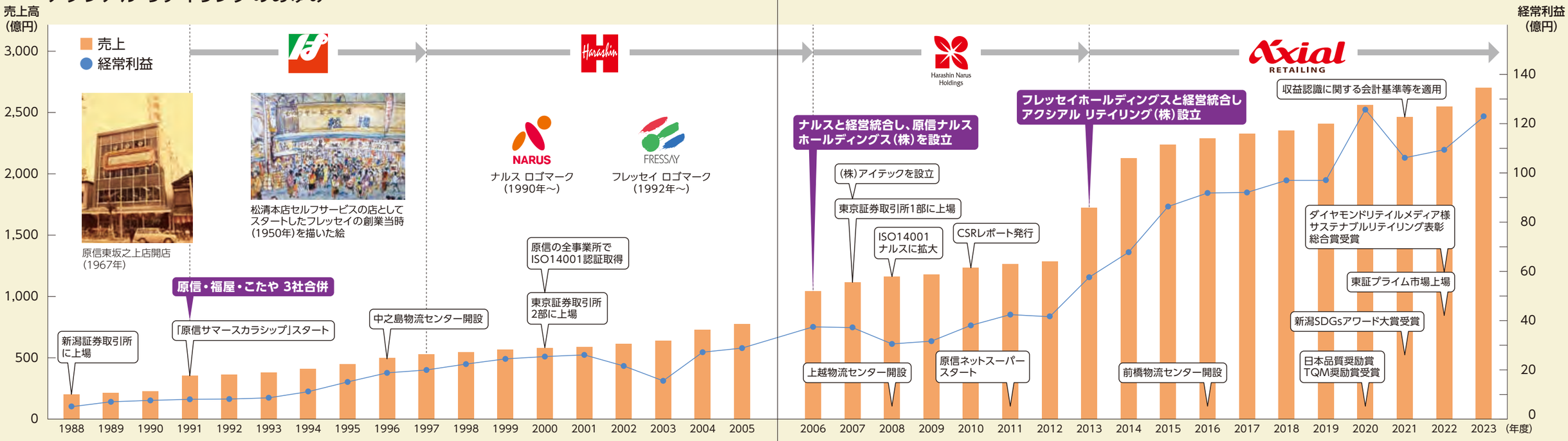
エンジョイ　アクシアル　セッション

Enjoy! Axial Session♪

「使命」と「数値目標」の達成



アクシアル リテイリングのあゆみ



アクシアル リテイリング　年度方針

『おいしさがドまん中大作戦!!』
～うまいよねって言われたい! (≧▽≦) ～

グループ重点テーマ

1 TQMを活用して自己変革

TQMの実践で課題に
挑戦し続ける人材の育成

2 ROA15%を目指した活動推進

ROA※を意識するための
仕掛けづくりと実践
※ROA:総資本経常利益率

3 現場力を高める

現場発信のアサーション※
と改善提案
※誰でも公平に指摘し合えるコミュニケーション

グループ年度方針

1 基盤活用で次のステージへ

①営業政策・情報の共有化推進
②PB・オリジナル商品の共有化推進
③デリカセンターの活用推進
④社会環境変化への対応
⑤新本部設立

2 次の成長に向けた計画づくり

①新規商勢圏開拓
②新フォーマット開発
③製造・物流拠点整備の
　計画推進
④IT活用の強化

3 選ばれるアクシアルに向けて

①事業と社会性の一体化
　自然と環境、健康、エシカル
②働きがいのある職場環境づくり
③コミュニケーションの活性化
④人材の育成と獲得

グランドデザイン

「規模・機能・人材」によってチェーンストアとしての「マスメリット」を創出し、お客様に「豊かさ・楽しさ・便利さ」をご提供します。

お客様に「豊かさ・楽しさ・便利さ」をご提供します

チェーンストアとしてのマスメリットを創出

規　模
スケール
▌店舗数131店舗
原　　信　68店舗
ナ　ル　ス　13店舗
フレッセイ　50店舗
2024年3月末の店舗数

機　能
仕組み
▌物流センター
▌製造工場（ローリー）
▌情報システム（アイテック）
▌商品調達・シェアードサービス
（原信ナルスオペレーションサービス）
▌印刷デザイン（高速印刷）等

人　材
〈基盤はTQM〉

マスメリットの創出と社会課題への対応に向けておいしさを究める



アクシアル リテイリング株式会社
代表取締役社長・CEO
原 和彦

この度、第24版となる「CSRレポート2024」を発行いたしました。

昨年2023年度は、新型コロナウィルス感染症が5類に移行したことで日常を取り戻し、人流が戻りお盆やお正月休みの帰省客が増え、事業への追い風となりました。このような事業環境の下で、私たちはアクシアル リテイリング設立10周年という節目を迎え、経営体制を刷新し、当初の目的である「マスメリットの創出」に向けて取り組んでまいりました。その改革はまだ緒についたばかりではありますが、確実にあゆみを進めています。

製造機能を担う（株）ローリーは、店舗数拡大に伴う製造の「量」と「質」の向上に向け、デリカセンターを新設しこの春に稼働を開始しました。また、物流機能を担う中之島チルドセンターでは増改装を行い、店舗への商品安定供給に向けた体制を整えました。

このように、規模の拡大に向けた対応と機能の整備を進めていますが、規模と機能を支えるのは人です。私たちはTQM（総合的品質管理）を根幹に据えた経営を行うと同時に、このTQMに基づいた人づくりを進めています。これら規模・機能・人材によってチェーンストアとしてのマスメリットを創出し、お客様に「豊かさ・楽しさ・便利さ」をご提供すること、これが私たちの目指すグランドデザインとなります。

また、昨年度は「事業と社会性の一体化」を目指したエシカル商品「Hana-well」を立ち上げました。この「事業と社会性の一体化」とは、従来事業活動と社会課題対応が別々の取り組みであったのに対し、商品を一品一品販売すること自体が何かしら社会課題への対応に貢献することを目指した活動を指しています。

例えば、昨年度多くのお客様からご支持の高かった商品に「新潟県のお米と茶豆でつくった『ふわっと』」がございます。これは、私たちと同じ新潟県長岡市に本社を構える岩塚製菓様から主旨にご賛同いただき、同社を代表する商品「ふわっと」に規格外の新潟県産茶豆を練り込んだ米菓です。この取り組みによって、従来食されることのなかった規格外茶豆の廃棄の削減につなげることができました。

社会課題への対応に貢献する「Hana-well」商品は昨年春に約60アイテムでスタートしましたが、現在は140アイテムを超える品揃えとなりました。社会課題への対応に貢献するというこの取り組みは、長く続けることが大切となります。

「Hana-well」商品に限らず、プライベートブランド商品や惣菜等オリジナル商品が長くお客様からお買い求めいただくためには、「おいしさ」が最も重要だと考えています。おいしいからこそ、多くお買い上げいただけ、そこからマスメリットが生まれ、お手頃な価格でご提供ができ、さらに良い商品へと磨かれる、という好循環が生まれます。今年度はこの「おいしさ」をドまん中に据えた事業展開に注力してまいります。

本CSRレポートでは、環境についての取り組みについてもご紹介しています。昨年度、原信白根店が建物の省エネ達成度ランク最高位の『ZEB』認証をいただきました。これは食品スーパーマーケットでは初めてのことで、私たちの環境経営の取り組みが結実した認証となりました。

また、物流2024年問題を迎える中、物流におけるドライバー不足問題への対応やCO2排出抑制を目的に、遠隔地からの野菜調達において、長距離物流を鉄道貨物で輸送するモーダルシフトの取り組みを新たに始めました。この取り組みは共同調達機構CGCグループおよびその加盟スーパーマーケットと共同で取り組んでいるものですが、非常に高く評価され経済産業省・国土交通省が主催する会議で表彰をいただきました。

これからも私たちは、社会課題への対応について一つ一つ向き合い、持続可能な社会の実現に向けて貢献してまいります。

「おいしさ」がドまん中!!

当社では、2024年度のグループ年度方針に「おいしさがドまん中大作戦‼」を掲げました。当社の追求する品質のドまん中に「おいしさ」を据えて取り組んでまいります。

「おいしさ」が最も大切な品質

当社では、普段使いのスーパーマーケットとして、一人でも多くのお客様にご利用いただけるよう、お手頃な価格でありながらも可能な限り品質にこだわった商品・サービスを提供することを心がけています。

店舗に入った時に感じる温かみ、ゆったりと買い物ができる広い通路、彩り豊かで新鮮な商品、選んで楽しい豊富な品揃え、心のこもった接客サービス。原信・ナルスで提供している袋詰めサービスも品質にこだわった代表的な取り組みの一つです。

このような様々な品質の中で、最も大切なのが「おいしさ」だと考えています。お客様に「豊かさ・楽しさ・便利さ」を提供することを目指す当社にとって、「おいしさ」は不可欠です。しかし、それだけではありません。「おいしい」からこそ、数多くお買い上げいただき、マスメリットが生じ、いつでもお値頃な商品を提供することができるようになります。また、「おいしい」からこそ健康に配慮した商品を毎日食べていただいて、健康的な生活のお手伝いができるようになります。

このように「おいしい」からこそ、お客様からご支持をいただき、当社の目指すものが実現できると考えています。





アクシアルブランド商品



Hana-well商品

毎日食べても飽きのこない「おいしさ」

当社の「おいしさ」の特徴は、毎日食べても飽きのこない「おいしさ」です。控え目でありながらしっかりと感じられる「おいしさ」を大切にしています。

そのこだわりの商品の代表が手造りおはぎです。1985年におはぎの名店として名高いスーパーマーケット「さいち」様に学び 当社にて毎年改善を加え、当社の名物商品となりました。

おはぎに最適な北海道産「えりも小豆」をじっくりと大釜で炊き、ひとつひとつ丁寧に包み込んだ甘さ控えめの自慢のおはぎです。



外部からも高評価

当社のおいしさは外部からも評価されています。一般財団法人全国スーパーマーケット協会様主催の「お弁当お惣菜大賞2024」および日本食糧新聞社様主催「第15回 惣菜・べんとうグランプリ2024」において、原信・ナルス、フレッセイともにそのおいしさが評価され、受賞・入選しました。

Bento and Prepared Meal Awards
お弁当·お惣菜大賞2024



各国料理部門

優秀賞
原信・ナルス
マッサマンチキンカレー



サラダ部門

入　選
原信・ナルス
贅沢海鮮カルパッチョサラダ

ファベックス 惣菜・べんとうグランプリ 2024

健康・ヘルシー部門



優秀賞
原信・ナルス
1日1/3野菜が摂れる七穀うどん弁当



デリ・ベーカリー&スイーツ部門

優秀賞
フレッセイ
レッドチキン・コロッケ・焼きそばのプチランチドッグ

人も社会も地球も健康に

当社グループビジョンに掲げる「健康経営」「環境経営」の一環として、健康ニーズに応える商品を提供するとともに、事業と社会性の一体化を目指したエシカル商品の提供を始めました。人も、社会も、地球も健やかになるために、僅かではありますが貢献してまいりたいと考えています。

健康商品シリーズ

だし香るシリーズ

塩味を抑えながらも、だしの旨味を引き出すことでおいしさを楽しんでいただける健康商品シリーズです。かつ重から始まった「だし香るシリーズ」は現在惣菜や各種生鮮商品の他、菓子や調味料等、現在190品目と幅広い商品で展開しています。



365×3サラダライフ

365日毎日朝昼晩と三食サラダを召し上がっていただけるよう、一工夫手間を凝らしたサラダのシリーズです。精肉・水産等　他部門とも連携した商品も多数品揃えし、商品開発の頻度高めることで、毎日楽しいサラダライフを提供します。



魚菜屋

魚料理は体に良いことは知られていますが、調理に手間がかかるために敬遠されがちです。魚料理をもっと頻繁に召し上がっていただけるよう、水産部門が素材、鮮度、おいしさにこだわって、店内調理した惣菜を提供しています。



極醸シリーズ

味噌・麹・ヨーグルト等 様々な健康効果が期待される発酵食品に漬け込んだ漬け魚・味付け肉を中心とするシリーズです。発酵食品によって引き出された旨味・食感を簡単調理でお楽しみいただけます。白ごはんと相性が良いと好評いただいています。



エシカル商品 Hana-well

事業と社会性を一体化させることを目指し、エシカル商品ブランド「Hana-well」を2023年春に立ち上げました。下記5つの軸で社会課題への対応に貢献してまいります。ただし、この活動も、商品がおいしくなければ長続きしません。そのため、Hana-wellブランド商品も「おいしさ」を第一にとらえることで、お客様のご理解・ご支持をいただけるよう取り組んでいます。

おいしさと、やさしさを。

Hana-well

商品の5つの軸

Earth
地球に優しく環境負荷を低減する商品をご提供します。
Healthy
体に優しく、心に癒しを与えてくれる商品をご提案します。
Local
地域で育まれた自然の恵みや文化の発信と継承に取り組みます。
Diversity
差別のない、笑顔がうまれる社会の実現を支援していきます。
Future
未来に向けた新技術に挑戦する取り組みを応援していきます。

事業と社会性の一体化

事業と社会性の一体化とは、商品をお買い上げいただくことで、商品の「5つの軸」において何かしら社会課題に対応している、ということを指しています。

「Hana-well新潟県のお米と茶豆でつくった『ふわっと』」は、今まで廃棄されていた規格外の茶豆を使用することで食品ロスの削減につなげています。

また、「朱鷺と暮らす郷弁当」は朱鷺と暮らす郷認証米を通じて売上の一部が佐渡市朱鷺環境整備基金に寄付され、朱鷺が暮らせる自然環境の保全活動に活用されます。

本商品の発売を機に、新潟県の自然環境保護・生物多様性の象徴とも言えるトキに思いを寄せ、アクシアル リテイリングは新潟県トキ保護募金に300万円を寄付しました。




朱鷺と暮らす郷弁当


新潟県庁にて新潟県知事と

まちごと美術館cotocoto様とのコラボレーション

Hana-wellのロゴマークをはじめ、商品パッケージの多くに障がいをお持ちのアーティスト様の作品を採用させていただいています。これは、障がいをお持ちのアーティストの作品を貸し出す事業を展開されている「まちごと美術館cotocoto」様とのコラボレーションによって実現している、包摂的な社会の実現に向けた取り組みです。

[事例] 表紙イラスト→P2、原信ミュージアム→P15

まちごと美術館 Cotocoto

健康と食を地域の方とともに

スーパーマーケットとして健康的な食事を提供するだけでなく、地域と連携した情報発信やウォーキングイベント等による啓発活動を行っています。また、地域のこどもたちの「食」の支援や、「食」の大切さを知るきっかけ作りのお手伝いをしています。

地域・メディアとのコラボ

「にいがたケンジュプロジェクト」協賛

原信・ナルスでは、BSN新潟放送様が推進している、健康寿命延伸キャンペーン「にいがたケンジュプロジェクト」に協賛しています。食の分野から健康をサポートするオリジナルブランド「だし香る」シリーズのCM放映など、さまざまな発信を推進しています。



新潟県、BSN新潟放送との記者会見

「からだがよろこぶデリ」の販売

原信・ナルスでは、新潟県が推進している健康づくり県民運動「健康立県プロモーション事業」の一つのテーマである「食生活」の取り組みとして、「からだがよろこぶデリ」を新潟県内店舗で販売しています。2021年10月から新潟県独自の「おいしくてからだよろこぶ」基準を満たしたお弁当2品が新たに「からだがよろこぶデリ」のお弁当として登録されています。



販売しているお弁当

フードバンク活動支援

様々な理由で生活に困窮し満足に食事を食べることができない人がいます。そのような方々を支援するために、原信では原信労働組合とともに、食のセーフティネットを支えるフードバンクながおか様に会員企業として協賛しています。



原信労働組合のフードドライブ活動

原信・ナルス ウォーキングデー

「食」だけでなく、「運動」の大切さを知っていただくきっかけづくりとして、原信・ナルスでは「原信・ナルス ウォーキングデー」を開催しています。年間40店舗で開催され、800人の参加枠もほぼ満員になる人気のイベントです。新潟県ウォーキング協会様のご協力もいただきながら、お客様とともに体を動かし、運動と食事で健康づくりをサポートしています。

イベント内容
①正しい歩き方講習・ストレッチ・
　室内でできる運動のご紹介
②店舗周辺約3㎞のウォーキング
③健康と食事セミナー・
　健康商品のご紹介



ウォーキング前の準備運動



ウォーキング出発

地域のことどもたちに食の大切さを

食を育む教育支援

「子どもが作る『弁当の日』」や「家庭で子どもに手伝いをさせよう運動」の活動を応援しています。活動の一環として、地域の小学校と連携して料理教室や魚の下ごしらえ教室を実施しています。

今後も調理を通じて「食の大切さ」「感謝の心」を醸成することで、地域貢献のお手伝いと食育の取り組みを推進してまいります。

「みんな食堂」のお手伝い

孤食を防ぐ取り組みとして「みんな食堂」の活動が地域で広がっています。原信では店舗で不要となる食材をご提供させていただいています。(原信 城岡店・宮内店・花園店・旭岡店・美沢店・寺島店・関原店・七日町店・見附店の9店舗)



料理教室



みんな食堂

子育て支援への協賛

県や市が発行する子育て支援カードをレジで提示することで、お買い上げ金額から5%の割引サービスを受けられます。また新潟県内では、子育てネットワークである「トキっ子くらぶ」に加盟しており、会員様には独自の割引クーポン券を月に1回お渡ししています。

全国共通子育て支援マーク

トキっ子くらぶ

お年寄の方の運動のきっかけ作り

お年寄りの方には、店舗まで来ていただき、店舗内でお買い物いただくだけで、一つの運動となります。その運動のきっかけ作りとしてアクシアル リテイリングの各スーパーマーケットでは65歳以上のお客様向けの特典サービスを提供しています。

原信は、毎週木曜日と年金支給日にお買上げ金額から5%引きをする「いきいきシルバーズデー」、ナルスでは、年金支給日に「シニア会員ポイント5倍デー」を行っています。

フレッセイの群馬県内10店舗では、毎週火曜日に「ぐーちょきパスポート5%引きの日」、栃木県内3店舗では、毎週火曜日にお買い上げ金額から5%引きをする「いきいきシニアデー」を開催しています。







地域のライフラインとして

スーパーマーケットとしての大切な役割に「ライフライン」の提供があります。当社は地域の生活インフラとして、地域のお客様の生活を支えることを根本的なミッションに据えて取り組んでいます。

ライフラインとしての使命

当社ではスーパーマーケットを運営する上で大切にしている考え方があります。

●お客様・従業員の安全第一
●判断の基準はお客様
●ライフラインとしての使命

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震では、津波注意報が発せられた地域において、お客様・従業員の安全を第一に考え、お客様を店外に誘導し休業する等の対応を行いました。その後安全の確認を行い、翌1月2日10時には全店で営業を通常通り再開しました。

これらの運営は、災害で店舗が閉店に追い込まれても ライフラインとしての使命を果たすために「一分でも早くお店を開ける」という考え方に基づくものです。これからもこの使命を胸に店舗運営を続けてまいります。

過去の災害例
2004年 7.13水害・中越地震
2007年 中越沖地震
2022年 村上市豪雨・長岡市豪雪

特に2022年8月村上市で発生した豪雨では、原信荒川店で店内で40㎝、駐車場では70㎝まで浸水しました。この状況に対し、通常は復旧に1か月半かかるところ、6日後に営業を再開しました。


2022年豪雨　原信 荒川店


2022年豪雪　原信 花園店


2024年能登半島地震　ナルス 柿崎店

令和6年能登半島地震　募金活動・義援金寄付

当社では原信・ナルス・フレッセイを含む全事業所で地震に対する義援金募金活動を行い、多くのお客様からお寄せいただいた募金12,809,543円を共同仕入機構である株式会社シジシージャパン様へ寄託しました。

また、アクシアル リテイリングは地震による被災者を支援するため、義援金として新潟県に1,000万円を寄付しました。


新潟県知事への義援金寄付

商品供給の強固な基盤づくり

私たちスーパーマーケットは取引先様から商品供給を受けることで事業が成り立っています。

取引先様から確実に商品供給を受けられるよう、強固な関係構築すべく、当社グループの政策を取引先様にご理解いただく場として「原信ナルス会」と「フレッセイ共栄会」2つの会を開催しております。今後、より強固なライフラインの基盤づくり、そしてさらなるマスメリットの創出に向けて、ステップアップした新たな会合の創設に向けて検討・準備を進めています。


原信ナルス会・フレッセイ共栄会

インフラとして信頼されるために

地域のライフラインとして機能を果たすためには、普段からお客様に信頼されるお店であることが大切だと考えています。

従来、店舗運営においては、基本の4原則を掲げていましたが、この内容を見直し「信頼されるお店の3条件」を制定しました。

これをもとにに、普段から信頼され、利用されるお店作りを目指してまいります。

信頼されるお店の3条件
①安全第一
②フレンドリーサービス
③品質、品揃え、廉価

ライフライン～災害協定

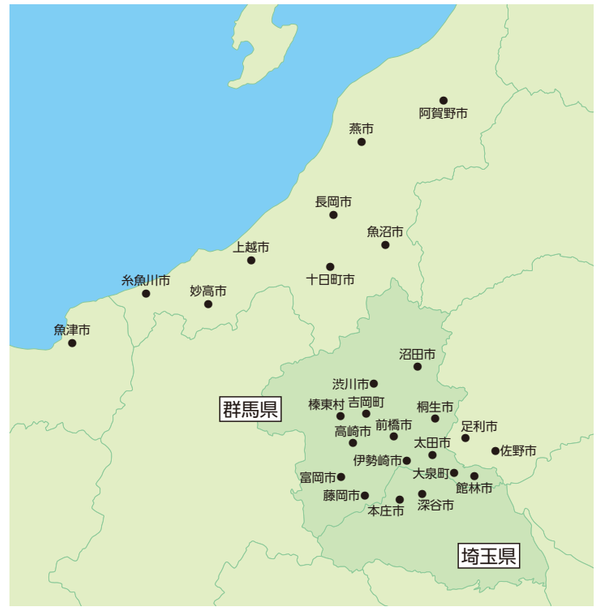
当社では「ライフライン」を提供することがミッションの根底にあると考えています。特に災害時においては、ライフラインとしての役割を全うすることが最重要課題となります。

このような緊急時に、地域の方々に食品や生活必需品を届けられるよう、当社グループでは新潟県8市、富山県1市、群馬県15市町村等、栃木県2市、埼玉県2市と災害協定を締結しています。

フレッセイの取り組み

フレッセイでは1986年から店舗に募金箱を設置し、お客様からお預かりした寄付金を浄銭として地域社会への福祉につなげています。2022年度はトイレを設置したトレーラーを派遣するトイレネットワークプロジェクトへ117万円を寄付し、令和6年能登半島地震でトイレが活用されました。また、群馬県高崎市が行う「おとしよりぐるりんタクシー」、渋川市が行う「あいのりタクシー」の取り組みに賛同し、タクシーの乗降場所を提供しています。


トイレトレーラー



災害協定締結の県・市

ふるさと納税を活用した寄付

地方創生応援税制「企業版ふるさと納税」を活用して、地域を担う人材を育成する事業や次世代のまちづくり・地域の活性化に寄与する事業への寄付を行い、地域の発展に貢献しています。

原信では新潟県燕市に対し令和6年オープンを目指す燕市全天候型子供遊戯施設整備事業に活用するために100万円を寄付しました。


燕市への寄付

地域の人づくり・文化継承

地域の多くのお客様に店舗をご利用いただいていることへの恩返しとして、地域の若い世代の「人づくり」のお手伝いをしています。また、地域の文化を大切に守るための社会貢献活動にも取り組んでいます。

地域の若い世代に明るい未来を

原信サマースカラシップ

長岡市とその姉妹都市であるテキサス州フォートワース市、それぞれ高校生8人がペアになり、長岡市とフォートワース市交互に約1週間ほどホームステイをするプログラムです。 地域の皆様への感謝のしるし、そして異文化に触れ視野の広い人間に育ってほしいという願いから、1991年より原信が協賛しています。新型コロナ感染症の影響で中断を余儀なくされたこともありましたが、今年で30回を迎えます。



新潟県長岡市



テキサス州フォートワース市

長岡技術大学でTQM講義

国立大学 長岡技術科学大学 情報・経営システム工学課の「経営システム学」の講義の一環として、原信がゲスト講師となりTQM講座を行っています。

TQMについての講義、QC手法の演習を通じてTQM活動や品質管理について知っていただく機会になっています。



TQM講座の様子

公益財団法人長岡社奨学金

長岡市の先覚者が設立した育英事業団体「長岡社」の人材育成の精神を引き継ぎ、原信は1997年より長岡社奨学会の運営を支援しています。

学資貸与・給付のほか、地域の文化・教育・スポーツ・国際交流などへの資金援助も行っています。

コラボラトリー

公立大学 長岡造形大学と原信がコラボレーションし、同大学で学生の作品を公募し、優秀作品を原信店舗のカフェコーナーで展示する企画「コラボラトリー」が2022年10月にスタートしました。

2023年度は43作品の応募があり、15作品が優秀賞に選ばれました。受賞作品は長岡市内の原信古正寺店・寺島店・宮関店のカフェコーナーで展示されています。



コラボラトリー表彰式

原信ミュージアム

原信では「まちごと美術館CotoCoto」様と協働し、障がいをお持ちのアーティストのアート作品をカフェコーナーで展示する「原信ミュージアム」を開催しています。(新潟市・長岡市・柏崎市・新発田市・南魚沼市・燕市に計11店舗)

障がいをお持ちのアーティスト作品はHana-well商品のパッケージにも活用しており、様々な形で支援することで包摂的な社会の実現に貢献しています。



原信 吉田店

地域文化の発展・継承

第12回ご当地！絶品うまいもん甲子園　地元高校を応援し優勝！

全国の高校生がアイデアメニューを競う食の甲子園において、フレッセイは関東甲信越代表の群馬県立勢多農林高等学校の応援・サポートを実施しました。

この結果、79校304チーム参加する中、同校考案の地元食文化が詰まった「群馬のお好そば焼き」が優勝しました。

フレッセイではこのメニューを商品化し10店舗期間限定で販売しました。



群馬のお好そば焼き

地元の食文化を継承　山理屋小国饅頭

長岡市小国（おぐに）地区で100年以上和菓子を製造販売してきた山理屋菓子舗様。その看板商品「小国饅頭」のおいしさを当社で引き継ぎたいとお願いし、製法を伝授いただきました。

直火炊きあんこのコクのある甘さと、塩味の効いたもちもちの皮がおいしい、甘じょっぱい味わいが特徴のお饅頭です。 現在、この「小国饅頭」はローリーで生産し、原信・ナルスおよび一部のフレッセイ店舗で販売しています。



「つなぐ」小国饅頭物語

商品継承の物語を動画にまとめました。
こちらからご覧いただけます。

正三尺玉の提供

アクシアル リテイリングは地域文化の継承にも貢献してまいります。

本部所在地の長岡市の花火大会「長岡まつり大花火大会」は日本でも有数の花火大会として知られています。この花火大会には、第二次世界大戦中の長岡空襲に対する「慰霊・復興・平和」という三つの願いが込められています。

原信は、この大会の願いに賛同し、大会を代表するプログラムの一つである「正三尺玉3連発」を提供することで、長岡市の歴史と文化を後世に伝えてまいります。







2023年長岡まつりの期間中、原信は「夜空彩る長岡大花火御膳」を長岡市内店舗で販売し、その売上の一部として30万円を長岡花火財団に寄付しました。



長岡花火財団理事長（長岡市副市長）への贈呈



夜空彩る長岡大花火御膳

誰でも働きやすい環境づくり

私たちは、多様な価値観を有する幅広い人材にその能力を最大限発揮してもらうことをで、イノベーションを創造し価値創造につなげられるよう、ダイバーシティ（従業員の多様性）を推進しています。

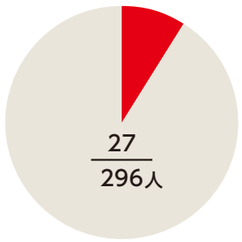
誰でも働きやすい

女性

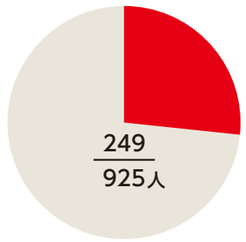
スーパーマーケットは従業員の7割以上が女性であるため、作業環境や機器を整えることで、性別の違いで「できる」「できない」仕事がないように配慮しています。また、基本方針としてすべての教育プログラムや評価において男女共通の機会を提供しキャリア形成へのチャレンジを支援しています。

女性ならではの気づきは商品の販売や売り場づくりで大きな強みにもなります。現在、女性の登用を進めており、2023年度末の女性管理職人数は、(原信、ナルス、フレッセイで) 合計27人となり、昨年に比べ2人増加しています。

管理職※1における女性の比率



チーフ※2における女性の比率

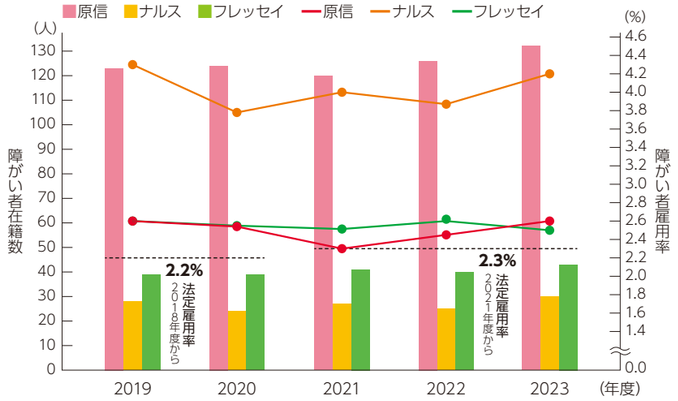


※1.管理職:部長、室長、センター長、店長、チーフバイヤー、マネジャー(含:エリアマネジャー)。
※2.チーフ:店舗、本部のチーフ(主任)相当。

障がい者

当社では、障がいをお持ちの方も就労を通じて誇りを持ち、自立した生活を送ることができるよう、障がい者雇用に努めています。すべての事業所が物心両面での雇用環境整備を継続的・計画的に進めたことにより、雇用率は全事業会社において2.3%以上となっています。

障がい者在籍者数と雇用率の推移



外国人

従業員の採用においては、国籍や出身地、性別に関係なく、その人の持っている能力と人間性で採否を決定し、幅広い人材を受け入れています。現在原信・ナルスではレギュラー社員5名、フレッセイでは7名の外国籍社員が勤務しています。

商品開発や直輸入商品分野において、海外産地を訪問する機会は増えてきますので、外国籍を持っている方の強みを発揮していただきたいと考えています。

技能実習生

当社では食品製造を担うローリーで20名、フレッセイで89名の計109名が技能実習生として勤務しています。

開発途上地域の経済発展を担う人づくりを目的に事前教育や入社後の日本での生活をサポートしています。

シニア

労働力の確保、技術とノウハウ長期活用の観点からレギュラー社員、パートナー社員ともに定年後再雇用により、原信・ナルスは70歳、フレッセイは65歳まで継続勤務できるように雇用上限を引き上げています。

また、安心して長く働き続けていただくために、毎年セカンドライフセミナーを定期的に開催しています。定年後再雇用制度や働き方などのセカンドキャリアに関することに加え、年金等のマネープランについて説明しています。

身だしなみ基準の見直し

社会環境の変化に合わせ、多くの外国籍従業員もいることから多様性（ダイバーシティ）の推進や個性を尊重し、従業員一人ひとりが、自分らしくイキイキと働き、活躍できるような職場環境を整備するため、お客様に威圧感、恐怖感、だらしなさを感じさせないことを前提に身だしなみ基準を変更しました。自分らしさを表現できることで自由な発想を生み、そこに自然と笑顔もあふれ、今まで以上に何でも言い合える職場を目指します。



身だしなみルールの変更点 ※いずれも安全･衛生上の理由から条件･制限があります。



「奨学金返済支援制度」の新設

大学生の二人に一人が利用していると言われている奨学金制度。その返済が従業員にとって負担とならず、生活を充実させ業務に集中できる環境を整えるために、当社では「奨学金返済支援制度」を新設しました。

一定の条件を満たした従業員に対し、奨学金の返済額実費を支給することで支援しています。

※支援額は規程により上限あり。

ステップアップ

パートナー社員からレギュラー社員への区分変更

当社では、年に一回行われる区分変更試験を受験し合格することで、パートナー社員からレギュラー社員（正社員）へ区分変更する制度があります。

技能を身につけながら、雇用区分のステップアップの機会を提供することで挑戦する従業員を応援します。

アシスタントチーフ

アシスタントチーフは、パートナー社員の中から店舗の必要性に応じて会社から任用されている1日6時間勤務のチーフです。限られた時間の中でも、働き甲斐のある雇用機会を提供します。

スーパーマーケット3社の区分別従業員数　（2024年3月31日時点）

	レギュラー社員	パートナー社員	アルバイト	合 計	比 率
男 性	1,624	849	1,958	4,431	28.3%
女 性	658	6,487	4,086	11,231	71.7%
合 計	2,282	7,336	6,044	15,662	100.0%

長く働き続けられる環境づくり

イノベーションを創造するためには、従業員一人一人が心身ともに健康的で充実した日々を過ごせることが大切です。そのために、男女ともに働きやすく、そして休みやすい社内環境づくりを推進しています。

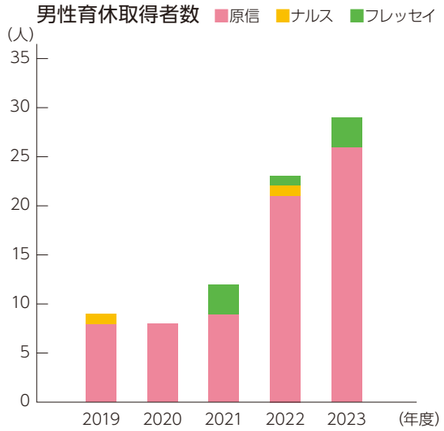
家庭と仕事の両立　出産や介護があっても働き続けられる環境

出産・育児休業制度

原信・ナルスでは、従業員向けに「出産・育児休業制度説明会」を開催することで、同制度の取得を促進しています。制度説明の他に、育児休業を経て復帰した社員による体験談発表を行っています。出産時の体験や復帰後の仕事・育児両立のコツなど、経験者だからこそ話せる内容が毎回好評です。

男性の育児休業制度取得

男性の育児休業制度取得を促進しています。休業取得者はそれぞれ取得の期間やタイミングも異なりますが、「初めての出産、子育てに不安が多いので、夫婦で協力して赤ちゃんを迎えたい」「復帰する妻が仕事に専念できるよう、サポートしたい」と、かけがえのない時間をご家族と過ごしています。従業員の育児経験は、お店づくり、商品づくりなどにも反映されます。



両立支援コーディネーターの設置

原信・ナルスでは2023年度より人事教育部に新たに両立支援コーディネーターを配置しました。仕事と育児・介護・病気の両立をより円滑にすすめるため、会社制度の説明や社員と地域社会や公的サポートとの連携など休職中のサポートや復職支援をコーディネートして、キャリア継続を支援します。



両立支援コーディネーターによるサポート

家庭と仕事を両立し女性でも働きやすい企業に

原信・ナルスは、子育てサポート企業「くるみん」認定および、新潟県で女性労働者の育成・登用などに積極的に取り組める「ハッピー・パートナー企業」に認定されています。

くるみんマーク

新潟県 ハッピー・パートナー企業

群馬いきいきカンパニー認定

群馬県では、育児・介護と仕事の両立、職場における女性の活躍推進、従業員のワーク・ライフ・バランスの推進などに取り組む企業を「群馬いきいきカンパニー」として認証しています。フレッセイでは、特に優れた取り組みを行う企業に与えられるゴールド認証を取得し、すべての従業員が働きやすい環境づくりを推進しています。

群馬県 ベーシック認証マーク

群馬県 ゴールド認証マーク

健康

健康宣言

当社グループはお客様に「豊かさ・楽しさ・便利さ」をご提供することを目指していますが、これは「従業員が健康であってこそ、地域のお客様の健康な食生活を支えることができる」との考えのもと、健康経営を推進しています。

健康経営宣言

地域のお客様の健康貢献
商品、サービスの提供で地域の健康と未来に貢献します。

自発的な行動を重視した「からだ」の健康づくり
豊かな人生を歩むために健康づくりを習慣にします。

メンタルヘルスケアを重視した「こころ」の健康づくり
明るく、闊達、イキイキとした職場で、健康に働きます。

健康経営優良法人認定

原信・ナルスおよび株式会社アイテックは、経済産業省が進めている健康経営優良法人認定制度において、健康経営優良法人として認定されました。

原信・ナルスは3年連続の認定、アイテックは2023年度に初めての認定となります。

2024 健康経営優良法人 Health and productivity

メンタルケア

体だけでなく、心も健康でいられるよう様々な取り組みを行っています。

①メンタルヘルプ専用相談窓口の設置
②メンタルケア教育
③カウンセリングの実施

通報・相談窓口

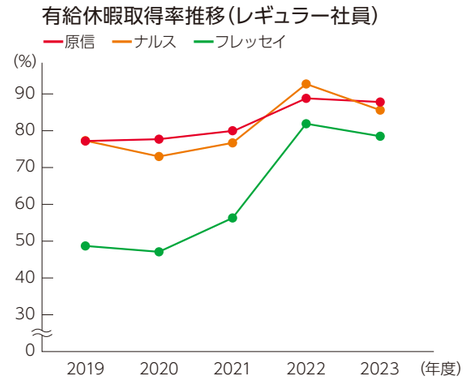
全従業員が正しく理解できるようにeラーニングを活用したハラスメント研修を開始しました。

また、当社グループでは、従業員からの各種相談・指摘等について、従業員が直接通報できる内部通報相談窓口を開設しています。窓口は内部（各社労働組合・労務企画室）、外部（顧問弁護士）に設置し、関連部署と連携しながら働きやすい職場環境の整備に努めています。

有給休暇取得推進の取り組み

社内定例会議の開催頻度見直し、人員不足の店舗への応援体制構築、定期的な連休の取得推進など、有給休暇の取得しやすい環境の整備に取り組むことで、有給休暇取得率は年々向上しています。

原信・ナルスでは、「半日有給休暇制度」の導入、フレッセイでは連休・有休取得のパターンを増やし、年に4回、3連休以上の取得できるようになりました。これからも有給休暇を取得しやすい環境づくりに向けて取り組んでまいります。



TQMを根底に据えた人づくり

当社はTQM（トータル クオリティ マネジメント：Total Quality Management：総合的品質管理）を経営の根幹に据え、生産性、働きがいのある職場環境を整え、お客様の満足の実現に向けて継続的な改善を続けています。

TQMを基盤とする人づくり

TQM（Total Quality Management：総合的品質管理）は様々な「課題」に対してPDCAを回すことで、事業活動の品質を向上させる取り組みのことです。アクシアル リテイリングではこのTQMを「お客様のご満足を目的とした全員参加の組織的継続的な経営活動」と定義し、経営の根幹に据えて取り組んでいます。

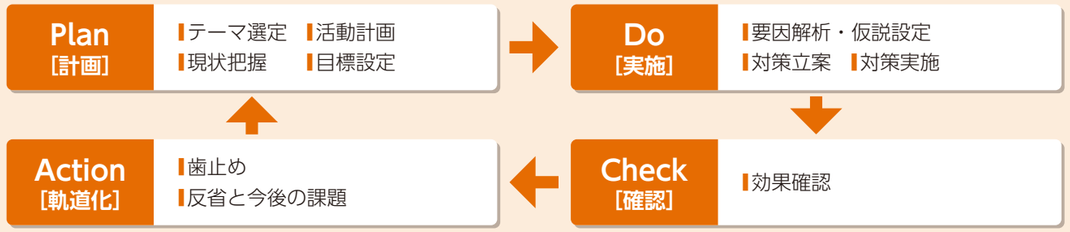
TQMは職場・担当業務で活動単位を構成しますが、各活動単位は年度経営方針およびそれに紐づく部署方針に沿って活動テーマを選定し、週単位で行われるウィークリーマネジメントを通じてPDCAを回し継続的に品質を改善します。

アクシアル リテイリングでは、このTQMをベースにしたウィークリーマネジメントを通じて「人づくり」を目指しています。

TQMの基本的な手法

問題解決型手法	課題達成型手法	未然防止型手法
発生している問題を解決するPDCA	新たな価値を生み出すPDCA	発生しそうな問題のリスクを低減するPDCA

PDCA基本構造



QCサークル 石川馨賞奨励賞受賞

フレッセイ 有馬店　惣菜部門「ひなたサークル」

テーマ：手焼き焼きまんじゅうの製造不良個数を削減しよう

2023年5月に、QCサークル石川馨賞授賞式が北海道で開催され、「石川馨賞奨励賞」を受賞しました。石川馨賞を含めて当グループで8回目の受賞となります。



日本品質奨励賞

2020年、当社は小売業では初めて一般財団法人日本科学技術連盟様による「日本品質奨励賞 TQM奨励賞」を受賞しました。

これは「トップ・経営層のリーダーシップにより事業とTQMが密接に結びついていること、改善活動が組織のDNAとして定着していることなどによって大きな成果を創出していること」が受賞理由です。



人材育成

全社研修

当社グループではイノベーションを創造し続けられるスペシャリスト集団を目指し、人事戦略の柱として「専門性の追求」「多様性の確保」「成長の実感」を掲げ、人材育成、ダイバーシティそして社内環境整備に取り組んでいます。

人材育成については大きく右の取り組みを実施しています。

- 階層別教育
- ジョブローテーションによる配置教育
- 科学的手法の教育（計数・IE手法・ISM等）
- 感性を養う教育（アイデア発想道場等）
- 資格取得の推奨

TQMを推進するための教育

TQMを実践するには、様々な手法についての知識が必要です。その知識の習得のためには教育が大切です。

当社では、TQM関連だけで右のような教育プログラムを組んでおり、昨年はTQM関連の研修だけで87回開催されており、のべ1,435人が参加しています。

- 各種手法
- 統計分析
- 発表技術
- QCサークル運営
- QC検定講座

感性・「おいしさ力」を磨くための制度

お客様への感性に訴えかける力を養成したり、「おいしさ」を究めるための制度を整えています。

●「美食の旅」支援制度

国内・海外問わず、休日を利用しておいしい食に触れる旅に出かけ、美食体験レポートを提出することで、飲食代について一部補助する自己啓発支援制度。

●スペシャリスト認定試験

グループビジョン実現に向けた本格的なチェーンストアを分業できるスペシャリスト育成を目的とした認定試験制度。（筆記試験、オムライス検定、レポート、面接）

●アイデア発想道場

長岡技術科学大学アイデア開発道場長の改田哲也教授の指導のもと、創造的でイノベーティブな発想力を習得する研修。これまで社内幹部60名が受講しました。



カゴメ(株)様監修のオムライス検定

アサーションの取り組み

当社グループでは「明るく、闊達、イキイキ」と働ける企業風土を醸成するため、アサーションの取り組みを推進しています。おせっかいと思われるかもしれないけども遠慮せずに指摘する、そして指摘された方はそれに感謝するという文化をつくることが、組織・職場の雰囲気を明るくし、新しい価値創造を生み出す原動力になると考えています。

このアサーションをしやすい職場環境を醸成するために、「ピースサインあいさつ」と「Goodサイン」を励行しています。とてもシンプルなことですが、このようなボディランゲージの積み重ねが、人間らしくイキイキと働きやすい職場につながると考えています。



ピースサインあいさつ
相手の目を見ながら、笑顔でピースサイン。



Goodサイン
職場で何か良い仕事をしたときに、指で「良いね」を示す。



アサーション
組織や職場をより良いものにするために、お互いを尊重しながらも、素直に自分の意見を伝えるコミュニケーション。

技術革新への対応

私たちは日々進歩するIT技術に適切に対応することで、お客様に便利なサービスを提供するとともに、働きやすい環境づくり、食品廃棄物の削減そして収益の最大化を目指しています。これらを支える情報システムは、当社グループではアイテックがその開発・運用を担っています。

ITを活用したサービス

アプリの提供

スマートフォンが浸透し、ライフスタイルが変化する中で、当社グループではスマホアプリによる各種サービスを提供しています。お客様にお得に、楽しく、便利にお買い物をしていただくための情報発信・サービスを取り揃えています。

これら機能はパソコンからもご確認いただけます。

原信アプリ
◀android & iPhone

フレッセイ アプリ
◀android　iPhone▶


原信・ナルス
アプリ


フレッセイ
アプリ

お買い物情報







ネット通販

ネットスーパー




ご自宅へお届け

ネットオーダー




店頭でお受け取り

ギフトの発送




ご指定の住所へお届け

クイックコマース・宅配受け取りBOX

UberEats

原信はクイックコマースを提供するUber Eatsに採用いただいています。新潟市3店舗、長岡市1店舗から配送可能なエリアでご利用いただくことが可能です。

宅配便ロッカー

一部店舗の店頭で、宅配便ロッカーを設置しています。お客様にとって便利なサービスで、当社グループ店舗へのご来店促進にもつながります。また、再配達やドライバー不足など社会課題への対応にも貢献しています。


Amazon Hub

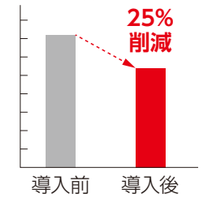

PUDOステーション

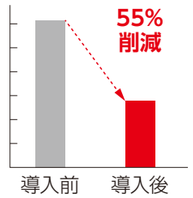
AI自動発注

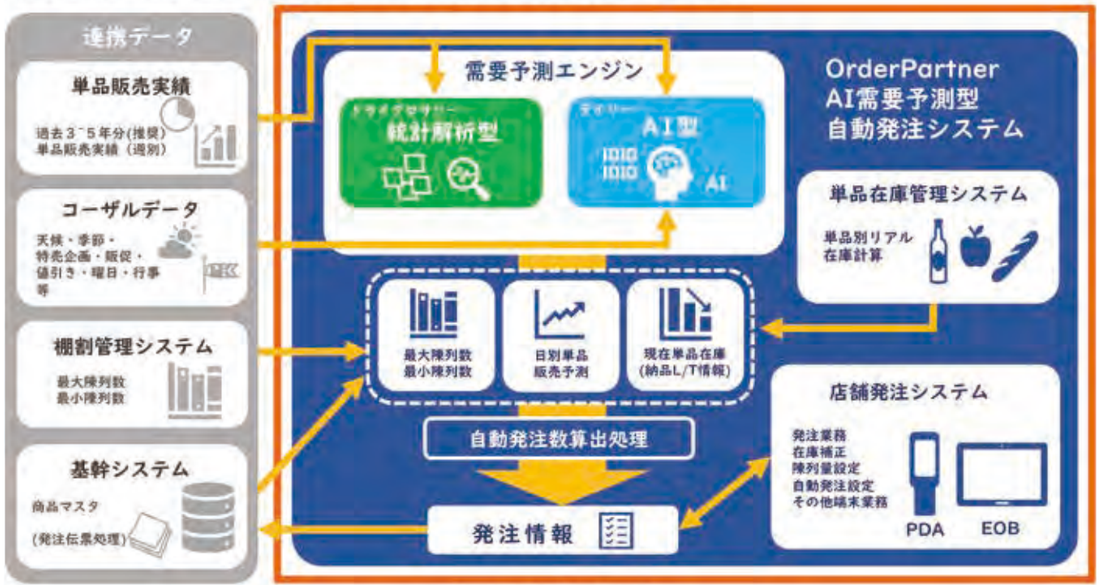
需要予測エンジンをもとにAI需要予測型自動発注システムをグループ会社アイテックが自社開発しました。

加工食品を中心にAI自動発注の導入を進め、品切れ件数低減によるチャンスロスの削減、発注時間の削減による業務の効率化、さらには食品廃棄物の削減に繋げています。

AI需要予測型自動発注の導入効果







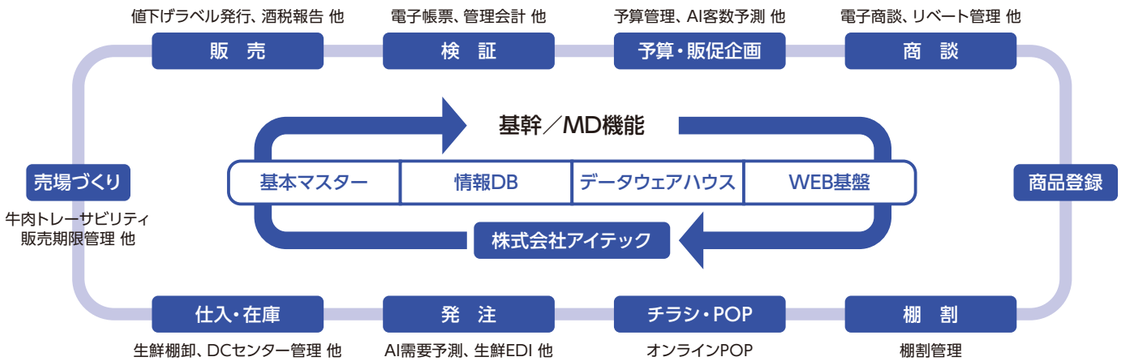
技術革新を支えるアイテック

i-TEC
株式会社アイテック

当社グループでは、株式会社アイテックがIT・情報システムの開発と運営を担っています。

当社グループ内で開発したシステムは外部に対しても提供しており、現在、160社にご導入いただいています。特に発注システム「EOB (Electric Order Book)」は半数の約80社からご採用、ご導入いただいています。

各種ソリューションサービス一例



循環型社会を目指して

当社はグループビジョンにおいて「環境経営」を掲げています。「環境経営」の中でも食品を取り扱う当社においては、食品やプラスチック・紙の使用量抑制・廃棄物発生抑制・リサイクル等、資源の有効活用及び循環型社会の実現に向けた取り組みを行っています。

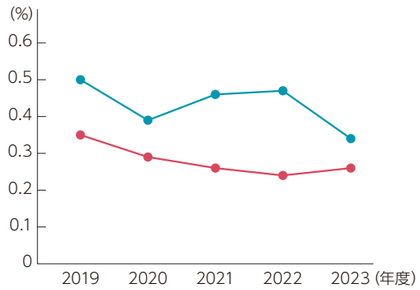
食品廃棄物の発生抑制

店舗や製造工場から排出される食品廃棄物の削減に向け、様々な取り組みを実施しています。

- TQMによる製造歩留まりの向上
- 訓練センターでの製造技術の向上
- AI需要予測型自動発注

また、時間帯別毎に「あるべき売場」をスタンダードレベルとして定め、品切れによってもっと売れたかもしれない「チャンスロス」、販売期限が切れることによる「廃棄ロス」を最小限に抑制し、食品ロスを削減し収益を最大化するために、デイリーマネジメントを強化して取り組んでいます。

廃棄率の推移



お寿司のスタンダードレベル



開店時に品揃え
ピーク時間に向けて最大ボリューム
値下げで陳列量をコントロール
閉店時には食品ロスをゼロに

プラスチック使用量の削減

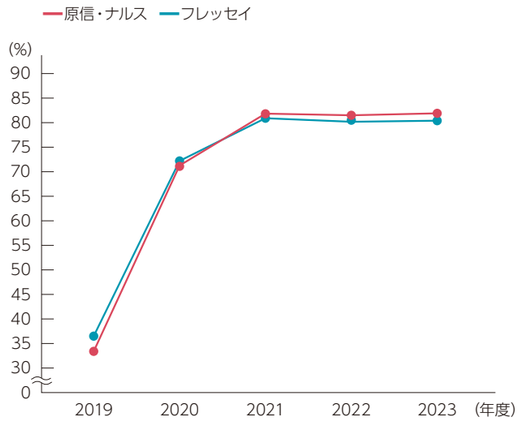
循環型社会の形成に向け、レジ袋の3Rに取り組んでいます。

また、プラスチック資源循環促進法の施行に伴い、プラスチック製スプーン等のカトラリー有料化を他社に先駆け実施しました。同時にバイオマス原料を使用したスプーンに切り替え、CO_2排出量削減にも取り組んでいます。

レジ袋の3R

- Reduce（減らす）……マイバスケットの利用促進、レジ袋有料化
- Reuse（再利用）……お客様にレジ袋再利用の呼びかけ
- Recycle（リサイクル）……レジ袋の店頭回収

レジ袋辞退率推移



カトラリー排出量推移



バイオマス原料を使用したスプーン

環境に配慮したPB・オリジナル商品

限りある資源を有効に活用するために、さまざまな形で環境に配慮したPB商品・オリジナル商品を展開しています。



有機食材商品



ノントレー商品



FSC認証商品



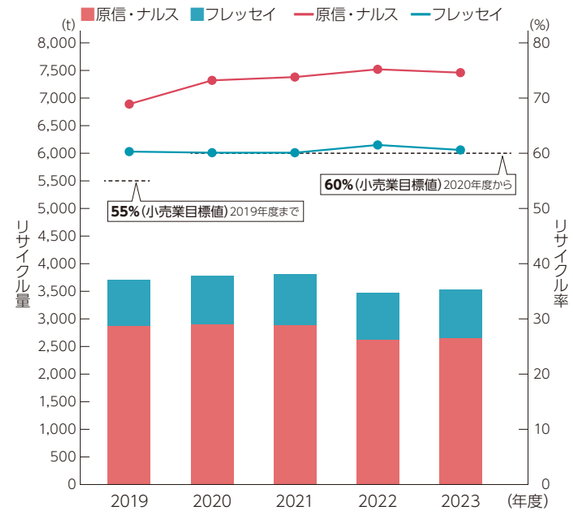
規格外食材商品

リサイクルの取り組み

食品のリサイクル

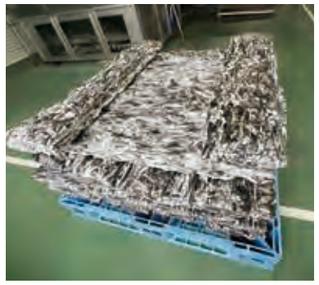
食品廃棄物として発生するものの多くは、野菜の外葉や魚のアラなど、販売することに適さない食材です。それらは、各リサイクル業者様の施設で、たい肥や飼料、燃料などの新たな資源に生まれ変わっています。原信、ナルスでは現在76店舗、フレッシェイでは20店舗でリサイクルを実施しています。

食品廃棄物（廃食用油含む）のリサイクル量および率



発泡スチロールのリサイクル

原信・ナルスへ納品される商品で使用された発泡スチロールは、グループ会社　原興産に集約しポリスチレン原料にリサイクルされ、国内・海外の2つのルートへ出荷しています。



加熱して容積を減らしポリスチレン原料（ポリスチレン・インゴット）化された発泡スチロール



発泡スチロールの減容設備

店頭回収品のリサイクル

当社のスーパーマーケット各社は、透明トレイ・発泡トレイ等を回収しリサイクルしています。

リサイクルの詳細についてはP30をご参照ください。



リサイクルボックス

温室効果ガス排出の低減に向けて

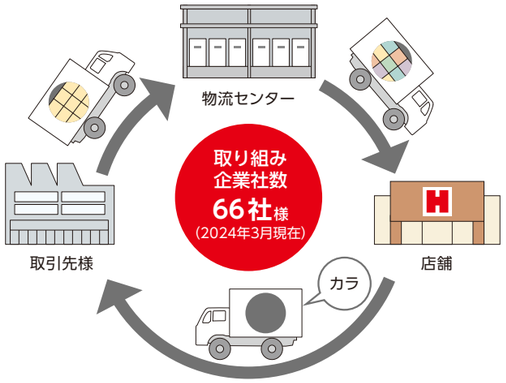
CO2・フロン等の温室効果ガス（GHG）排出量低減は全ての事業者共通の課題です。当社では主に物流の効率化および店舗における電気使用量の削減・クリーンエネルギー化によるGHG排出量低減に取り組んでいます。

物流の効率化

物流の効率化による、CO2排出の抑制を推進しています。これは温室効果ガスの排出抑制のみならず、化石燃料の使用量低減、ドライバーの労働環境改善にもつながる取り組みとなっています。

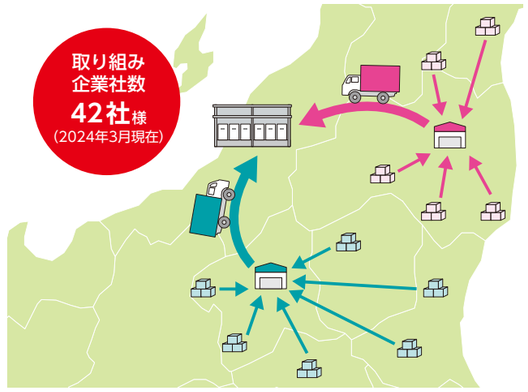
戻り便の活用

物流センターから店舗に商品を運んだ後、空になって戻るトラックを活用し、店舗近隣のお取引先様の商品を引き取って物流センターに納めます。



遠隔地からの共同配送

関東・東北地方の二か所に中継物流センターを設置し、当該エリアのお取引先様の商品を一時的に集約し、中継物流センターからまとめて新潟県に運んでいます。



モーダルシフト※

原信・ナルスでは、CO2排出削減を目的としたモーダルシフトを、共同調達機構シジシージャパン様他5社協働で導入しています。
この取り組みが評価され「令和5年度グリーン物流パートナーシップ会議　物流パートナーシップ優良事業者表彰」において「グリーン物流パートナーシップ会議特別賞」を受賞しました。



グリーン物流パートナーシップ会議における表彰



※モーダルシフト：生産地の最寄り駅から当社物流センター最寄り駅までの輸送を鉄道輸送で行うことで、CO2排出量削減効果を図る取り組みです。

『ZEB』認証の取得

原信は、2023年11月に建替えオープンした白根店において、建築物省エネルギー性能表示制度（BELS※1）による5段階評価の最高ランクを獲得するとともに、スーパーマーケット業界では初めて（独自調査による）省エネ達成度ランク最高位の『ZEB』認証※2を取得しました。基準一次エネルギー消費量を基準に、AI制御による省エネエアコン等 各種省エネ設備導入によって65%削減、屋根を最大限活用した太陽光発電パネル設置によって47%創エネし、「合計112%のエネルギーを削減した」との評価をいただきました。

※1 BELS：建築物における省エネ性能を評価する第三者認証表示制度です。
※2『ZEB』(Net Zero Energy Building)：建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロ（100%削減）にすることを目指した建物を指します。広義のZEBにはNearly ZEB、ZEB Ready等複数の種類がありますが、その中でも最も優れた省エネ性能を示すものが今回取得した狭義の『ZEB』です。



原信 白根店



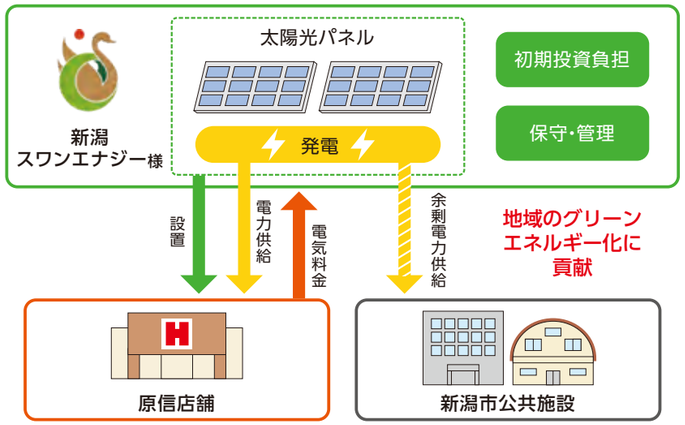
太陽光パネルの推進

CO2排出量削減に向け、太陽光パネルの設置を推進しています。

アクシアル太陽光パネル設置店舗数
2022年度 累計38店舗
2023年度 累計48店舗

このうち原信が新潟スワンエナジー様と展開している太陽光PPA（電力販売契約）モデルでは、店舗で使いきれない余剰電力を新潟市の公共施設に提供する、地域のグリーンエネルギー化に貢献する取り組みを行っています。
（2024年3月末現在9店舗）

太陽光PPA（電力販売契約）モデル事業



冷蔵・冷凍機器の管理

温度管理の厳格運用

スーパーマーケットは冷蔵・冷凍商品・生鮮食品の品質・温度を維持するため、冷蔵・冷凍機器を多数使用しており、電力を多く消費しています。当社グループでは、商品の品質を担保するために温度管理を厳密に行うことを前提に、電気使用量削減を徹底し、CO2排出量の削減に努めています。

グリーン冷媒の推進

当社グループでは、オゾン層を破壊する特定フロン、温室効果が高い代替フロンを使用している設備については冷媒の漏洩を厳格に管理するとともに、地球温暖化への影響が少ないグリーン冷媒を使用した冷蔵・冷凍機器の設置・切替えを推進しています。
（2023年度グループ設置数 58店舗）

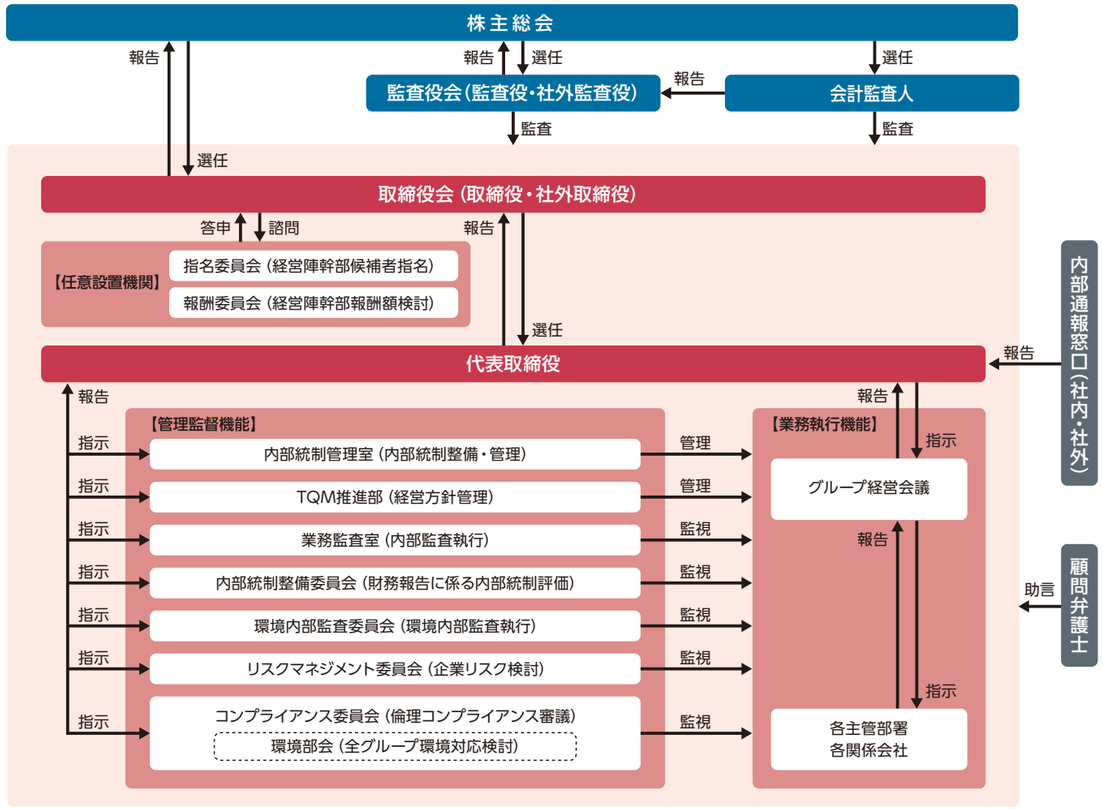

グリーン冷媒ショーケース

環境経営

持続可能な社会の実現に向け、当社では意思決定の迅速化・透明性・公平性の確保を図り、責任体制を明確にしたコーポレートガバナンス体制を強化しています。また、事業活動における環境影響を数値化し把握することで、環境パフォーマンスの向上に努めています。

ガバナンス

コーポレート・ガバナンス体制についての模式図



ISO14001の取得

原信・ナルスの全店舗・全事業所において環境マネジメントシステムの国際規格 ISO14001の認証を取得しています。ISO14001は環境負荷の低減やマネジメントシステムそのものの維持向上を目指す PDCAです。TQM 同様、PDCA を回すことで環境の取り組みを進化させてまいります。

環境経営に対する表彰

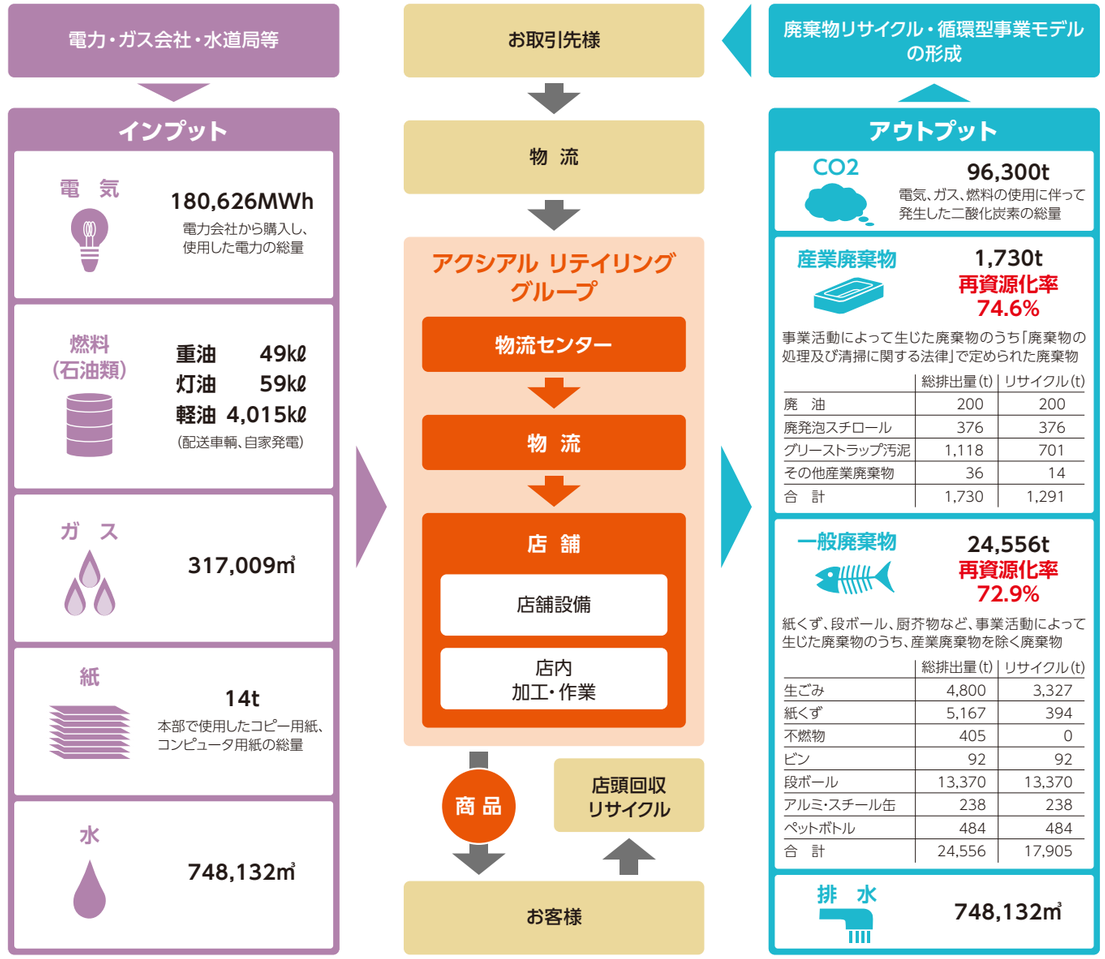
新潟SDGsアワード大賞受賞

2021年、原信・ナルスは『第1回新潟SDGsアワード大賞』を受賞致しました。この賞は、地域創生プラットフォーム「SDGsにいがた」準備会にて審査されるものであり、原信・ナルスでの活動が高く評価されました。

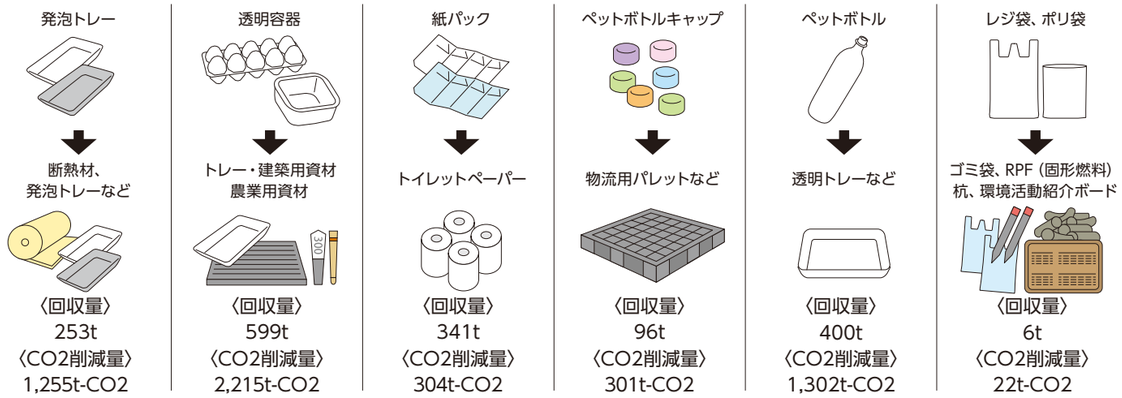
「サステナブル・リテイリング表彰」総合賞受賞

2022年、株式会社ダイヤモンド・リテイルメディア様が主催する、食品小売企業のサステナブルな施策を表彰する「サステナブル・リテイリング表彰」において、当社は第一回の総合賞を受賞しました。

スーパーマーケット事業におけるインプットとアウトプット



スーパーマーケット事業におけるリサイクルの概要



事業活動と環境影響

持続可能な社会の実現に向けた投資・費用とその効果の把握に努めるとともに、気候変動への対応として、CO2の排出用の把握およびリスク項目の特定と評価・対策を策定しています。

環境会計

環境保全活動に対する投資、費用とその効果を把握して、環境保全活動の効率化に努めています。コスト集計及び効果の把握方法は環境省「環境会計ガイドライン2005版」を参考にして作成しました。

環境保全コスト

分類		主な取り組みの内容	2022年度 投資額（千円）	2022年度 費用額（千円）	2022年度 CO2削減効果（t−CO2）	2023年度 投資額（千円）	2023年度 費用額（千円）	2023年度 CO2削減効果（t−CO2）
(1)事業エリア内コスト		――	166,180	271,652	―	113,560	310,642	―
内訳	(1)−1公害防止コスト	ばい煙・地下タンク・浄化槽検査費 グリーストラップ等設備導入費 グリーストラップ清掃費、浄化槽維持費など	135,965	47,507	―	102,454	38,649	―
内訳	(1)−2地球環境保全コスト	LED照明工事など	30,215	31,635	257	11,106	20,849	327
内訳	(1)−3資源循環コスト	廃棄物処理費、生ゴミリサイクル費など	―	192,510	―	―	251,144	―
(2)上・下流コスト		容器包装リサイクル法再商品化委託料	―	59,802	―	―	60,785	―
(3)管理活動コスト		ISO審査費用、環境教育、EMS各種勉強会、展示会、新店の緑地など	12,121	20,245	―	955	2,277	―
(4)研究開発コスト		――	―	―	―	―	―	―
(5)社会活動コスト		各種組合費など	―	50	―	―	50	―
(6)環境損傷対応コスト		アスベスト除去費用	―	27,303	―	―	―	―
合計		――	178,301	379,052	275	114,515	373,754	327

※対象企業：原信、ナルス
※減価償却費については2000年以降に実施した原信の設備投資について集計しており、ナルスでは集計していません。

環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標（単位）	2022年度	2023年度
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	電力使用量（MWh）	182,734	180,626
	ガス使用量（千㎥）	371	317
	重油使用量（kℓ）	48	49
	灯油使用量（kℓ）	137	59
	軽油使用量（kℓ）	4,203	4,015
	水使用量（千㎥）	727	748
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果	CO2排出量（t−CO2）	94,869	96,300
	廃棄物総排出量（t）	24,685	26,286
	廃棄物最終処分量（t）	6,343	7,090
	排水量（千㎥）	727	748
事業活動から産出する財・サービスに関する環境保全効果	レジ袋回収量（t）	6	6
	紙パック回収量（t）	342	341
	発泡トレー回収量（t）	251	253
	透明容器回収量（t）	575	599
	ペットボトルキャップ回収量（t）	94	96
	ペットボトル回収量（t）	305	400

※対象企業：原信、ナルス、フレッセイ

環境保全対策に伴う経済効果

（単位:千円）

効果の内容		2022年度	2023年度
収益	リサイクル品売却益	67,271	86,619
収益	店頭回収品売却益	9,960	11,452
費用節減	店頭回収による容リ法再商品化委託料の節減	35,884	29,620
費用節減	ショッピングバッグ持参によるレジ袋費の節減	242,571	211,123
合計	――	355,686	338,814

※対象企業：原信、ナルス、フレッセイ

気候変動への対応

温室効果ガス排出量の把握

気候変動対応への対応として、グループ全社における温室効果ガスの排出量を把握し、その削減に努めています。2023年度の温室効果ガスの排出量は以下の通りです。

分類		CO2算定（t）	構成比
スコープ1	直接排出	19,499	1.2%
スコープ2	エネルギー起源の間接排出	80,109	5.0%
スコープ3	その他の間接排出		
	［カテゴリ 1］購入した製品・サービス	1,193,449	74.5%
	［カテゴリ 2］資本財	38,565	2.4%
	［カテゴリ 3］エネルギー関連活動	12,735	0.8%
	［カテゴリ 4］輸送、配送（上流）	56,691	3.5%
	［カテゴリ 5］事業から出る廃棄物	1,847	0.1%
	［カテゴリ 6］出張	73	0.0%
	［カテゴリ 7］雇用者の通勤	10,579	0.7%
	［カテゴリ 8］リース資産（上流）	排出量が小さくサプライチェーン排出量全体に与える影響が小さいため算定しない	―
	［カテゴリ 9］輸送、配送（下流）	176,640	11.0%
	［カテゴリ10］販売した製品の加工	排出量が小さくサプライチェーン排出量全体に与える影響が小さいため算定しない	―
	［カテゴリ11］販売した製品の使用	排出量が小さくサプライチェーン排出量全体に与える影響が小さいため算定しない	―
	［カテゴリ12］販売した製品の廃棄	10,058	0.6%
	［カテゴリ13］リース（下流）	排出量が小さくサプライチェーン排出量全体に与える影響が小さいため算定しない	―
	［カテゴリ14］フランチャイズ	排出量が小さくサプライチェーン排出量全体に与える影響が小さいため算定しない	―
	［カテゴリ15］投資	2,034	0.1%
合計		1,602,279	100.0%

※集計における参考資料、出典
・「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位について（Ver.3.3）」（環境省）
・「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.3.3）」（環境省）
・温室効果ガス排出量　算定・報告・公表制度における算出方法・排出係数一覧（環境省）

リスク項目の特定と評価・対応

気候変動によるリスク・機会として7つの項目を抽出、抽出された項目が財務に与えるインパクトを定性的に評価しました。今後が定量的なインパクト評価を行い、影響の大きさを明確にしていく予定です。

リスク	区分	変化の要因	リスク機会	事業インパクト	財務インパクト（上昇シナリオ） 2℃	財務インパクト（上昇シナリオ） 4℃	検討している対応策
物理的リスク	急性	異常気象の発生割合・深刻度の増加	リスク	保有する財産・資産への被害の発生	小〜中	大	災害時の施設維持対策
物理的リスク	急性	異常気象の発生割合・深刻度の増加	リスク	気象災害によるインフラの損壊等や調達先の被災による商品の調達にリスクを及ぼす	小〜中	大	災害時の施設維持対策
物理的リスク	慢性	平均気温の上昇	リスク	飼料・畜産物生産量・漁獲量が変動し、価格に影響を及ぼす可能性がある	小〜中	大	産地・取引先の分散
物理的リスク	慢性	海面上昇	リスク	沿岸施設の施設・設備が被害を受け、物流網の問題が発生	小〜中	大	災害時の施設維持対策、複数の調達ルートの確保
物理的リスク	慢性	カーボンプライジングの導入及び価格の上昇	リスク	CO2排出量に応じた炭素税の負担発生	小	大	再生可能エネルギーの利用拡大
移行リスク	政策法規制	電力小売価格の変動	リスク	電力料金の支払い増	小	大	省エネ設備の導入
移行リスク	政策法規制	低炭素な新しい生産技術の開発	リスク	自然冷媒を用いた設備機器など、新技術の設備投資の増加	小	大	省エネ設備の導入
移行リスク	政策法規制	低炭素な新しい生産技術の開発	機会	省エネ設備の導入拡大等によるエネルギー使用量削減・再生エネルギー導入	小	大	省エネ設備の導入
移行リスク	政策法規制	消費者嗜好の変化	機会	低炭素製品・サービスに対する需要変化への対応	小〜中	大	サステナブルな商品開発の推進

持続可能な社会の実現に向けて

「ライフライン」として信頼されるお店作りを追求するとともに、お客様に「豊かさ・楽しさ・便利さ」を提供できるよう取り組んでまいります。

食の大切さをみんなと⇒P11・12
- ▶フードバンク
- ▶みんな食堂・食育
- ▶子育て支援・お年寄り特典サービス

健康的な生活を支援⇒P9・10・11
- ▶健康商品シリーズ
- ▶地域・メディアとのコラボ
- ▶ウォーキングデー

従業員が長く働き続けられる環境づくり⇒P19・20
- ▶健康宣言
- ▶従業員の心と体の健康

地域の人づくり⇒P15
- ▶原信ミュージアム　障がい者アート
- ▶長岡造形大学 コラボラトリー
- ▶長岡技術大学 TQM講義
- ▶原信サマースカラシップ
- ▶長岡社奨学金による支援

従業員の育成⇒P21・22
- ▶TQMを基盤とする人づくり
- ▶スペシャリスト集団を目指した全社研修制度
- ▶土台としてアサーションの取り組み

技術革新への対応⇒P23・24
- ▶ITを活用したサービス
- ▶AIを活用した業務品質の改善
- ▶情報システムを支えるアイテック

働きやすい環境づくり⇒P17・18
- ▶ダイバーシティ
- ▶身だしなみ基準の見直し

食品廃棄物削減に向けた取り組み
- ▶TQMによる歩留まり向上
- ▶訓練センターでの技術習得
- ▶食物残渣リサイクル
- ▶売れ残りを出さない売場づくり

Hana-well

おいしさと、やさしさを。

「今」と「未来」に「幸せの花」が咲くように
社会課題への対応と事業の一体化を目指す
エシカル商品「Hana-well」

物流効率化によるCO2排出抑制
- ▶独自物流センターによるCO2排出量削減
- ▶戻り便による商品引き取り
- ▶共同配送物流の拡大



電気使用量削減によるCO2排出抑制
- ▶ショーケースの厳格な温度管理、照明のLED化の推進
- ▶閉店後カバーによる保温

プラスチック使用量の削減
- ▶レジ袋の3R
- ▶スプーン等カトラリーの有料化
- ▶マイバスケットの利用促進

資源の有効活用
- ▶紙パック・発泡トレー・透明容器・レジ袋等、店頭回収によるリサイクル

誰でも利用できるお店作り
- ▶車いす・お子様連れ・妊婦の方専用駐車場
- ▶段差のないバリアフリーなアクセス
- ▶車いすの設置
- ▶補助犬の同伴入店可能
- ▶介助が必要な時のインターフォン設置
- ▶買い物しやすい幅広い通路

物流の効率化⇒P27
- ▶自社物流センターによる物流網
- ▶戻り便による引き取り
- ▶共同配送便

地球温暖化ガス排出量の削減⇒P28
- ▶電気使用量の削減
- ▶太陽光パネルの設置
- ▶物流の効率化
- ▶フロンの回収破壊処理
- ▶ノンフロン（グリーン冷媒）の使用

環境経営⇒P29・30
- ▶ガバナンス体制の確立
- ▶ISO14001の取得（原信・ナルス）
- ▶CO2排出量等 環境影響の管理
- ▶店頭回収品のリサイクル

循環型社会を目指して⇒P25・26
- ▶ロス・チャンスロスマネジメント
- ▶食品廃棄物の発生抑制・リサイクル
- ▶TQM・訓練による歩留まり向上
- ▶プラスチックの使用量削減・店頭回収・リサイクル

環境配慮商品の展開⇒P26
- ▶物流でCO2排出量を削減した商品
- ▶規格外食材を原材料に使った商品
- ▶紙・プラの使用量を削減した商品
- ▶有機食品・環境認証商品

地域の文化継承⇒P16
- ▶長岡花火正三尺玉の提供
- ▶食文化の継承
  うまいもん甲子園　地元高校を応援
  山理屋小国饅頭の継承

ライフラインとしての使命⇒P13・14
- ▶信頼されるお店づくり
- ▶商品供給の強固な基盤づくり
- ▶県・市との災害協定
- ▶募金活動・寄付活動